

第8回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2月25日(木) 14:00～14:30
2. 場 所 中央合同庁舎第4号館12階1202会議室
3. 出席者 内閣府原子力委員会  
岡委員長、阿部委員、中西委員  
内閣府原子力政策担当室  
室谷参事官、貞安政策企画調査官
4. 議 題
  - (1) 第17回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合の開催について
  - (2) アジア原子力協力フォーラム(FNCA)「2016スタディ・パネル」の開催について
  - (3) その他
5. 配付資料
  - ( 1 ) 第17回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合の開催について
  - ( 2 ) アジア原子力協力フォーラム(FNCA)「2016スタディ・パネル」の開催について
  - ( 3 ) 第38回原子力委員会定例会議議事録

6. 審議事項

(岡委員長) それでは、時間になりましたので、ただいまから第8回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題は、1つ目が第17回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)のコーディネーター会合の開催についてです。2つ目がアジア原子力協力フォーラム(FNCA)の「2

016 スタディ・パネル」の開催についてです。3つ目がその他です。

本日の会議は、15時を目途に進行させていただきます。

本日の議題は、議題1と2を、FNCA関係の議題ですので、一括して審議を進めます。

それでは、事務局から御説明をお願いいたします。

(室谷参事官) ありがとうございます。

議題1件目と2件目、まず1件目はアジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合の開催、そして、2件目はスタディ・パネル、2016年スタディ・パネルの開催について、事務局の貞安政策企画調査官の方から御説明申し上げたいと思います。

よろしく申し上げます。

(貞安調査官) それでは、ただいまから2件の会合につきまして、御説明を申し上げます。

FNCAには、まず4つ、年間会議がございます。年次の定例の会議がございまして、今回は、そのうちの2つを連続して同時開催するという段取りになってございます。

まず、1件目でございます。題目にございますとおり、第17回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合の開催について、この書類に沿って御説明申し上げます。

本文に入りまして、少し前置きになるかと思いますが、そもそもこのFNCAなるものでございますが、ここの※1番のところに書いてございまして、FNCAというものは、我が国が主導するアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムでございまして、これは2000年ちようどから始めて、今年で16年になるところでございます。

今回、そのうちのコーディネーター会合というものでございまして、これにつきましては、その次に続けて書いてございますが、コーディネーター会合は、自国におけるプロジェクトの実施に責任を持ち、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を担う各国コーディネーターによる年1回のプロジェクトの実施状況を評価・レビューすると、こういった会でございます。

会議の日程、場所等は以下にございますとおり、3月8日及び3月9日、2日間でございます。主催は内閣府原子力委員会。共催がございまして、文部科学省が共催でございます。場所は三田の共用会議所で行います。4番、参加国、現在のところ全12か国、加盟国が参加する予定になってございまして、出席人数でいいますと25名という状況でございます。

加盟国以外で申しますと、海外からは、ここには記述はございませんが、海外の3つの国

際機関から参加が予定されております。すなわち、1番目がOECD/NEA（経済協力開発機構原子力機関）、ここから1名いらっしゃいます。それから、IAEA（国際原子力機関）から1名いらっしゃいます。もう一つ、IAEAのRCAという組織がございまして、これは韓国にございますRCAのリージョナル・コーポレーション・アグリーメントに基づいた機関でございまして、ここから2名の方がいらっしゃいます、こういう段取りになってございます。

日本からの出席者、書いてございますが、岡原子力委員会委員長、それから委員の各位、それから、内閣府からは大臣官房審議官、中西審議官がお出になります。それから、その次にございます和田FNCAコーディネーターが出席されまして、会合の議長も務められるということになってございます。

それでは、右側にまいりまして、今回の会合のプログラムを簡単にここに書いてございます。この中から必要な点を拾いまして御説明申し上げます。

今回の会合、2日間ございますが、大きく申し上げますと2つの大きなイベントテーマがございます。

1点目は、FNCAがやっております10のプロジェクトがございまして、このプロジェクトの過去1年間の活動、この活動の成果の報告と、これが1つの大きな固まりでございます。

もう1点は、昨年末にございましたFNCAの大臣級会合というのがございまして、12月に行ったのでございますが、この会合で決議されました様々な事項につきましてのフォロー、これが2番目の大きな柱でございます。

以上がこのアジェンダの中にございまして、具体的に申しますと、セッションの3、それからセッションの8まで、ここに様々なプロジェクトの報告が予定されております。全部で10のプロジェクト、順次報告をしてまいります。

その後にセッションの9というのがございまして、これが2番目の柱でございますが、大臣級会合での共同コミュニケと、この内容に盛り込まれました様々なフォローアップのアクションがございまして、これをコーディネーター会合としてどのように展開していくかというのが2番目の議論となっております。

この2番目の方につきまして、若干補足で申し上げますと、今回の大臣級会合で、大きく申しますと2つのタスクが与えられております。

1点目は、これは気候変動に関連したテーマでございまして、今議論されております気候

変動に対して、原子力の科学、原子力の技術が貢献をしていくと、こういった我々の決議に対しまして今後、具体的な展開をしていく予定でございまして、さらに、ここに3つのテーマがございます。1つは、気候科学のプロジェクトに取り組むと、これを決議しております。2点目は、農業分野で放射線の応用を更に進めて農業分野に貢献すると、これを2番目に決議しております。それから3番目は、これはいわゆる気候変動の緩和策になるわけでありませんが、原子力発電を推進することによって気候の変動を緩和していくと、これを決議しております。以上3つが、気候変動に関する今回のアクションテーマとなっております。

もう一つ、今回、大臣級会合で議決されておりますのが、FNCAの活動そのものについての今後の継続的改善をしていくと。FNCAは2000年からやっておりますので、現在既に16年経（た）っております、各国のいろんなニーズについてもいろいろ変化が出てまいりました。そこらあたりを捉えまして、より各国のニーズに即した活動を展開していくという趣旨で、継続的な改善を進めていくと、こういう決議がなされたわけです。

以上の内容のものを、今回2日間かけて議論するという予定になってございます。

それでは次に、次のページでございまして、スタディ・パネルの方につきまして御紹介を申し上げます。

2番目の会合は、FNCAの「2016スタディ・パネル」というものでございます。

まず、このスタディ・パネルという名前でございますが、これがどんなものかということにつきまして、簡単に御紹介したいと思います。

FNCAは、先ほど申しましたとおり、西暦2000年に始まってございまして、当初、始まった当時は、やはり放射線の利用、それから研究炉の利用と、こういった分野が主たる活動でございました。

その後、次第に各国の関心のポイントが変わってまいりまして、追加で出てまいりまして、各国で原子力の発電の導入の構想が出てまいりました。その背景には、やはり各国の電力需要の急増ということと、先ほど申しました地球温暖化への懸念といったものがあって、原子力の導入ということが各国にとってテーマになってきたという状況がございます。

そのような状況を踏まえまして、2004年から、このスタディ・パネルなるものを開催しております。したがって、今回が都合11回目のパネルということになります。過去に約16のテーマにつきまして、様々な議論を重ねてまいっております。

今回のテーマでございますが、本文にございまして、参加各国が共通の課題としておりますステークホルダー・インボルブメントと、これを取り上げるという予定でございまして。

会議のいわゆるテーマとして掲げておりますのは、ここに括弧書きしておりますが、「原子力への信頼性とステークホルダーの参加、一般社会とのコミュニケーション」、こういうテーマでございます。これは、先ほど申しました昨年の大臣級会合で決議しておりまして、それを今回実施するという段取りでございます。

以下、場所、これは先ほどと同じで、三田の共用会議所。3月10日、一日をかけて実施する予定でございます。

参加各国、これも基本的に同じなのですが、スタディ・パネルだけにつきましては韓国が今回残念ながら欠席ということで、その他11か国から23名の方が出席されるという予定でございます。

日本からの出席者、ここに書いてございますが、岡原子力委員会委員長、委員の先生各位、中西内閣府大臣官房審議官、それから和田コーディネーター、関係省庁の方々、それから、次でございます地方自治体、これは具体的には福井県から今回いらっしゃいます。それから、国内民間業者が複数ございます。それから国内の団体、こういった方々をスピーカーとして今回、お招きしております。

それから、海外ですと、先ほどと同じでございますが、OECDのNEA、それからIAEAと、ここから講演者としてお招きをしております。

それでは、右側にまいりまして、プログラムにつきまして、簡単に御説明申し上げます。

3月10日、10時に開会いたしまして、この会合につきましては阿部委員に会合の議長をお願いしております。

冒頭のオープニングの後にセッションの2というのがございまして、ここが基調演説のセッションでございます。OECDのNEA、それからIAEAと、それぞれからステークホルダー・インボルブメントにつきまして、これをテーマとした講演を頂くという予定でございます。

それから、セッションの3からセッションの5まででございますが、これはステークホルダーに関連したテーマをそれぞれ設定しておりまして、議論してまいります。

セッションの3は原発の立地に関わるステークホルダー・インボルブメントということで、よくわかります。ここでは3件のスピーカーを用意しておりまして、1件目は柏崎刈羽から、地域の会からスピーカーを呼んでいます。それから2件目、福井県からいらっしゃいます。3件目は、加盟国であるオーストラリアからオネスについての報告を受けるということでございます。

それからセッションの4、これは討論2でございますが、ここは低レベル放射性廃棄物処理に係るステークホルダーというサブタイトルがついております。ここは、オーストラリア、それから日本原燃という報告を予定しております。

それから、セッションの5でございますが、ここは特別セッションと、少し名前は変えておりますが、「ステークホルダー間に形成された信頼の再確認」というものでございまして、ここは九州電力から講演をお願いする予定でございます。

以上のような様々なスピーカーの知見を、当日、12か国で共有するというのが今回のプログラムの内容でございます。

以上が今回予定しております2つの会合、3月の8、9、10というFNCAの会合の内容でございます。

説明は以上でございます。

(岡委員長) ありがとうございます。

それでは、質疑を行います。阿部委員からお願いします。

(阿部委員) 特に余りないのですけれども、貞安さん、しばらくこのFNCA担当してこれらで。

(貞安調査官) そうです、はい、やらせていただいて。

(阿部委員) もう4、5年。

(貞安調査官) 3年目です。

(阿部委員) 3年。ちょっと、もし歴史がおわかりになれば、お答えいただけるといいのですけれども、この参加国というのは、アジアとなっていますけれども、ざっと見ると、いわゆる地理的なアジアというのは、本当は中近東まで全部入ったアジアですよ。明らかにこれは入っていないですね。それから、そういう意味では、バングラドマリで、インド、パキスタンが入っていませんね。ですから、これは歴史的には、アジアといいながら実は東アジアを中心にしてやってきたと、こういう形成過程なのではないでしょうか。それで、たしかカザフスタンは最近入ったのですよね。

(貞安調査官) カザフスタンは2012年からだったかな。ちょっと記憶は定かでないですね。

(阿部委員) これも地理的には、オーストラリアというのはアジアじゃないですよ。そのあたりは、これはどういう、何か概念か何かあったのでしょうか。

(貞安調査官) 申し訳ございませんが、ちょっと発足当初の経緯につきましては正確に私も承

知しておりませんが、これは、もう一つ前の会合がございまして、1990年から、やはりアジア地区を束ねた会合を日本が主導してやっておったと。ICFN、ICNCAでしたか、ちょっとそんな名前のものでございまして、それをそのまま2000年からFNCAが継承したということですので、すみませんが、その一番原点のところでのどのようにその参加国を選定したかにつきましてはちょっと承知しておりません。

(阿部委員) ありがとうございます。

(岡委員長) 中西先生、いかがでしょうか。

(中西委員) どうも御説明ありがとうございました。スタディ・パネルの方には、都合によりとあるのですが、韓国はなぜ参加しないのか、教えていただければと思います。

(貞安調査官) 今回、ちょっとそこらあたりがはっきりしておりませんで、私どもも今、問合せもしておる最中ですが、特段深い意味はなく、先方のいろんなスケジュールの都合だというふうに現状では理解してございます。

(中西委員) どうもありがとうございました。

(岡委員長) 私の方も余りありませんが。2つありまして、1つは、初日の開会のセッションで挨拶と私はなっております、少し日本の状況を話そうかと、例えば量子科学研究機構ですか、高崎研が行きますので、そういうことも含めて、最近の日本の状況も少し紹介をしてはというふうに思っております。これはまた事務局と相談をしてやらせていただくということ。

もう一つは、FNCAも、先ほど貞安さんの方から大体の今後の方向みたいなのが、フォローアップでしょうか、ございましたけれども、そうですね、質問は、先ほど気候変動で3つおっしゃいましたね。

(貞安調査官) はい。

(岡委員長) 最初、1番目におっしゃったのは何でしたでしょうか。

(貞安調査官) すみません、ちょっと言葉が不足しておったかもしれませんが、オーストラリアが主導し、提唱しております、気候変動に関わるニュークリアサイエンスという英語の表現で我々はやっております、アイソトープを利用した様々な過去の気候の変動につきまして、測定してまいるということでございます。

(岡委員長) はい、わかりました。

少しずつアジアの国も、始めたころに比べたら原子力への関心も高くなって、放射線利用の方はますますということなのだと思うのですけれども、少しそういう方向も入れて、平和

利用も入れて、少しアジア全体で、アジアといいましても日本がずっとやっておりますので、日本の視点も入れて、皆さんの協力を得てやっていくということだと理解しております。

プログラムですので、余り質問することもございませんが。

参事官、何かございますか。

(室谷参事官) ありがとうございます。先ほど阿部先生がされた質問、とても実は大事な質問でございまして、既に貞安氏が申し上げたとおりに、明確なその開始時点での定義とか、こういった国は受けるけれどもこういった国は受けないみたいなことはやっていなくて、このようない方をするのが適切かどうかは別として、国としては自然発生とはいわないまでも、大体アジア地域でということが始まってきて、基本的には来るものは拒まずというような姿勢で、カザフスタンも入ってきたのですね。

こういうふうに来てきていますが、先ほどこれも説明があったように、2014年のFNCA大臣級会合での指摘において、今後FNCAは、開始以来時間が経(た)ってきているし、その役割、あるいは機能、プロジェクト運営の仕方、そのあたり全体を見直す時期が徐々に来ているのじゃないかという動きがございました。

それを受けて、結局2015年の大臣級会合においては、どうやって継続的改善を開始するかと。まずは最初にプロジェクト、10のプロジェクトの一つ一つのプロジェクト管理を、どうやってより成果が出て、より各国のために役に立つかという、その制度づくりをしましょうということ、いわばPDCAサイクルをきちんと組み込むということを始めしております。

また、その3つのレイヤーで改革をしようということにそのときになっていて、一番下の層がプロジェクト管理で、下から上から2番目の層が、仕組みというか委員会の立てつけ。それは大臣級会合があり、上級行政官会合があり、今回のコーディネーター会合があり、そしてプロジェクトがあると。このような仕組みが本当にFNCAの究極的な目標、すなわち、原子力を使ってアジアの経済及び社会の発展を図るといふ、それに本当に貢献しているかというのをチェックしようというのが上から2つ目のレイヤーの改革。

そして最後、究極的に最も大事なものは、15年経(た)ったFNCA、さきに申し上げているような究極的な目標、アジアの経済・社会の発展、原子力を使った発展というふうになってきているのですけれども、そもそもその究極的な目標と全体が本当にかみ合っているか。例えば国の、どういうふうに関後、国を広げていくかという部分も含めて、場合によっては再定義が必要になってくるのかもしれない。

そのあたりは今度、今年の秋以降に開かれる大臣級会合だとか、大きな議論をする場で、事務局として問題提起、あるいは具体的な提案をしながら、再度見直していきたいというふうに思っております。

以上、補足でございます。

(岡委員長) 何か御質問ございますか。

(阿部委員) いえ。

(岡委員長) スタディ・パネルの方で、OECD/NEAとIAEAがございます。これはどんな方がどんな内容の講演をされるか、もしわかりましたら。

(貞安調査官) スタディ・パネルで、まず、NEAの方からいらっしゃる方は、我々はヒメナさんと呼んでおるのですが、ヒメナ・バスケスというたしかお名前だったと思います。この方は、NEAの中での職責としましてはリーガルの部門なのですね。この部門を束ねておられる方でございます。今回は私どもの要請に基づきまして、是非ステークホルダー・インボルブメントにつきまして、NEAの知見を我々各国に紹介してほしいということをお願いしております。御本人は、したがって、この基調演説では、ステークホルダーについての、まず非常にベーシックないしはスタンダードなお話をしていただけるということが主たるテーマでございますが、併せて今後のFNCAとの活動としまして原子力賠償の話、これを是非機会を設けて、アジアの各国にも今の段階から、このテーマの重要性を伝播（でんぱ）していくというミッションもございまして、今回の会合の一部で、その御紹介も頂くというような段取りを考えてございます。

(岡委員長) IAEAは。

(貞安調査官) そうですね、IAEAの方は、これは原子力局からの方なのですが、やはり同様でして、ステークホルダー・インボルブメントにつきまして、IAEAのスタンダードといたしましょうか、基本の内容につきまして、まず冒頭に紹介いただくというのが主たる内容でございます。

(岡委員長) ありがとうございます。

先生方、その他ございますでしょうか。

それでは、ありがとうございます。この御説明のとおり進めるということで、開催することともあわせて、よろしいでしょうか。

それでは、進めていくことにいたします。

それでは、議題3、お願いいたします。

(室谷参事官) ありがとうございます。

その他案件でございます、まずは資料第3号として、第38回の原子力委員会議事録を机上配付いたしております。

今後の会議予定でございますけれども、来週の開催は間違いなくいたしますけれども、現在のところ、どの日にやるかというのをまだ決定できておりません。第9回の原子力委員会の開催日程につきましては、日にちが確定し次第、原子力委員会のホームページにおいて開催案内を申し上げたいというふうに思っております。

以上でございます。

(岡委員長) その他、委員から御発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御発言ございませんので、本日の委員会はこれで終わります。ありがとうございました。

—了—